

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371401288
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋鳴海の家
訪問調査日	平成 20 年 9 月 10 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 11 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日

【評価実施概要】

事業所番号	2371401288
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 名古屋鳴海の家
所在地	名古屋市緑区大型山901番地の2 (電話)052-899-5522

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山一丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月11日

【情報提供票より】(20年8月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人		

(2)建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 100,000円	有りの場合 償却の有無	1ヶ月以内の退去であれば日数に応じて返却	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日 1,300円			

(4)利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	18名	男性	9名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	63歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科 ソフィア歯科
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人が多数のグループホームを持つ中の一つである。ホームは住宅街にあり、ホームの敷地内には家庭菜園があり収穫期には食卓に上る時がある。職員は日々利用者に声をかけちょっとした協力にも感謝を述べている。それが利用者のやる気をおこし利用者のできることが増えている。また掃除や草むしり、調理など共に行っているが、無理強いせず居心地良く過ごすようにしている。ホーム理念でもある「協力し合える仲間と共に温かく明るい生活を送る、私達は家族です」を実践している。家族の来訪も多いことから信頼関係が出来ていることが伺える。運営推進会議を定期的に開催して地域との交流が今より進むことを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は地域との交流等である。近隣は新興住宅地でアパートが多く地域密着が困難な所はある。散歩や買い物などで近隣の人との挨拶はしており、少しずつホームを理解してもらえ人が増えつつある現状であるが、改善まではいたっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が取り組み、それを管理者がまとめている。それにより日常の生活で利用者との会話の大切さに気付き、日々出来るだけコミュニケーションを取るように、そして利用者のちょっとした協力にも感謝の言葉を述べている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	今年7月に1回目の開催をしている。出席者は協力医、民生委員、地域住民等である。内容は過去3年間のホーム実情を写真などで見てもらい、管理者が説明して、ホームの理解は得ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪も多く、家族が職員と気軽に話せる雰囲気は出来ている。また状態変化や通院の報告をかねて電話連絡する時もある。家族からの要望や意見は職員が話し合い検討して出来るだけ早い段階で改善しておりサービスの質の向上に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人と散歩や買い物時には挨拶をしている。また地域の人による大正琴や紙芝居、手品等のボランティアの受け入れをしている。今後地域の夏祭りなどの参加も検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「あなたが居て、私が居る。私が居て、あなたが居る。協力し合える仲間と共に、温かく明るい生活を送る、私たちは家族です。」である。職員と利用者は理念を下に日々協力し合える仲間となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や各フロアーの見やすい所に掲示しており、職員の採用時には理念を伝え理解してもらっている。また月1回の職員会議や日常の生活の中で理念に触れ実践に向け取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の紙芝居、大正琴、手品等ボランティアの受け入れはしている。町内会に入会するのが困難のため地域行事の把握がむづかしく参加できていない。近隣に老人保健施設があり喫茶コーナーに参加するなど交流はしている。	○	町内会に入会が困難とのことであるが、夏祭りや他の行事に参加することから始めて地域に馴染んでもらうようにしてはどうか検討されたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が取り組み、話し合いをして管理者がまとめている。毎日こつこつと利用者に声をかけて出来る事を増やしていることに気付いた。前回の外部評価での改善は利用者が少しずつ出来ることが増えてきていることである。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年始めて7月に開催している。出席者は協力医、民生委員、地域住民代表である。内容は過去3年間の暮らし振りなど説明してホームの理解を得る事ができた。次回は10月に開催予定である。	○	運営推進会議を2ヶ月毎に開催してサービスの質の向上に反映する事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の生活課に災害について相談したりしているが、福祉課には出向いていない。	○	ホームの現状や取り組みを伝え把握してもらい助言を得てサービスの質の向上に反映するよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は月1回～8回である。その時には利用者の健康状態や日常の生活ぶりを報告している。状態変化が見られる場合は随時電話などで報告している。金銭については個人の現金出納帳があり、来訪時には確認してもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見や要望など言ってもらえるように、職員から積極的に声をかけ、話し易いように努めている。家族の要望や苦情は十分な話し合いを行い検討して改善できるものは早い段階に改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年職員の異動は少ないが、ユニット間の異動は6ヶ月ほどで行っている。管理者は新人職員には介護計画書や薬に関して目を通してからケアサービスを行うように説明している。それを踏まえ慣れるまではベテラン職員の指導の下で行っており、利用者のダメージは少ない。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回法人の研修がある。他は市町村からの研修などに参加しているが全職員ではない。また個人で福祉に関する研修に休暇の時に参加している。	○	様々な外部研修も視野に入れ職員のスキルアップできるような研修が受講できるシステムを検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の他のグループホームとの交流はあるが他はない。今後は他のグループホームとの交流を積極的に行う予定はしている。	○	同法人は多数のグループホームがあり、そこからいくつかのホーム見学や体験実習をして、交流を図ってはどうか検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に細かい情報を家族から提供してもらい、本人にも会って話を聞いたり、ホームに見学に来てもらうなどして状況を把握し、入居してもらっている。入居後も利用者が馴染めるように不安の軽減を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に何か手伝ってもらい、ほめたり・ありがとうと言うようにしていたら、最初は見るだけの利用者も今では自ら手伝うようになった。今は利用者が自分たちで役割を決めている。また、利用者同士も支え合う関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の話し方や、変化や申し送り等で把握に努めている。また、夜勤のときにはよく利用者と話をコミュニケーションをとるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で汲み取った利用者の思いが、計画に反映できるようカンファレンスにおいて意見交換を行ないながら、介護計画を作成している。	○	今後は家族や医者とも相談しながら、詳しい具体的な計画書になることを望む。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しはもちろん、モニタリングは毎月行い、利用者の状態の変化に応じた見直しが行われており、現状に即した計画作成がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的にかかりつけ医への通院は家族で対応しているが、どうしても無理な場合は職員が連れて行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後に診断書をもらい、かかりつけ医と協力医に渡しているので連携はとれている。個人的にそれぞれのかかりつけ医に往診に来てもらっている人もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については入居時に説明はしている。重度化した場合は終末期のあり方を家族や医師と話し合っ、方針を決定する。	○	終末期に対する方針をまとめ、職員に周知徹底されることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた声かけをし、プライバシーに十分配慮している。職員は個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れのスケジュールはあるが、その日の気分や体調を見ながら過ごしている。朝寝坊をする人や新聞を居室で読んでいる人等さまざまに暮らしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が積極的に食事の準備や後片付けを手伝っている。また、ホームの畑でかぼちゃやトマトなどの野菜を利用者と職員とで一緒に作り、収穫して食卓にのる楽しみも味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば入浴は毎日でも可能である。時間は13:45～15:30頃としている。入浴拒否の人には2・3回声をかけたり、シャワー浴や足浴で対応している。機械浴も設けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性の利用者には鍵かけやカーテンをひいてもらったり、女性には食器洗い、洗濯たたみ、掃除、庭の草取り等できることを頼んでいる。手伝ってもらったら職員は必ず感謝の言葉を言うようにしている。また、職員はその時々で利用者に合う楽しみごとや気晴らしを見つけ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夕方の涼しくなった頃に日常的に建物の周りを歩いている。月3～4回職員と利用者が一緒にスーパー等に買物に行っている。また、個人的な買物にも職員は付き添っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。外出したい人がいたら一緒に外に出て散歩をしたり、ドライブに連れて行ったりして気分を変えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回5月・10月に消防署の協力のもと避難訓練を行っている。10月には夜間訓練を行なう予定にしている。非常食として、3日分の備蓄を用意している。	○	今後は運営推進会議などで地域の人たちへの協力依頼をしていくことを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量を記録し、職員全員で共有している。また、利用者の状況に応じて調理方法や形態を工夫するなど必要な栄養や水分が提供できるよう取り組んでいる。	○	高齢者の水分摂取について今一度検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的な共用空間には職員と利用者と一緒に作ったコスモスの季節感のある壁かざりや行事の写真などが飾ってある。整理整頓され清潔感のあるホームとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には使い慣れたタンスやテレビなどが持ち込まれ、孫の写真が飾ってあったり、部屋で日記がすぐ書けるように用意して居心地よく過ごせるように工夫されている。ドラゴンズファンの人はベッドの上にドラゴンズの雑誌を並べて、イキイキと話を聞かせてくれた。		